

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300019		
法人名	株式会社 サンメディックス		
事業所名	グループホーム にこピア浄法寺		
所在地	〒028-6911 岩手県二戸市浄法寺町上前田34番地		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	令和5年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は稲庭岳のふもとにあり、木々に囲まれ静かに暮らせる場所となっています。元小学校であり、敷地、建物と広大なスペースであり、ご利用者様にとって散歩、植物の観覧等、自由度の実現が可能です。春には桜を屋内からも観覧ができ利用者様にとっても楽しみの一つとなっています。施設内では広いスペースを活用して室内、旧体育館の散歩、併設事業所との人事交流もできております。介護職員は介護福祉士取得率が75%以上おり、日頃から密に話し合いの機会をもち、専門知識の高い職員が利用者様を支援をしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

二戸市浄法寺町の中心から西へ5~6kmほど、稲庭岳のふもとの緑豊かな集落の高台にある旧小学校を改築して開設された事業所である。二階にグループホーム、一階に小規模多機能ホームが併設されており、その看護師から健康管理やケアプランへの助言などの協力を得ている。運営推進会議の委員から、コロナ感染対策や行事へのアイデア、健康管理への助言等、活発な意見が出され事業所の運営に活かしている。また事業所の敷地や建物を利用して、地区の3つの消防団と協力して消防訓練を合同で開催するなど、地域との協力体制もできている。毎年作成する事業計画の方針や取組項目は、年度末に職員全員で話し合っ作成しており、職員間で支援の情報共有も図られている。管理者や社長との年2回の個人面談、毎月行われる職員会議、さりげない日常の会話から職員と管理者とのコミュニケーションが図られており、事業所広報「にこにこ」の構成、利用者ごとのアルバムの作成などのアイデアや工夫が支援に取り入れられ、利用者とは家族との関りを大切に介護を実践している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年11月10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業計画を職員と話し合っ方向性をだして取り組んでいる。目標に対して実施と評価をして進捗状況の把握に努めている。	経営グループの理念を基に、毎年度末に職員全員で事業計画を話し合い、次年度の方針を決めている。令和4年度の方針は「家族との繋がりを大事にした介護を目指す」とし、広報誌「にこにこ」の構成を工夫したり、利用者ごとのアルバムを作成して家族に送付するなどの支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住民との繋がりはコロナ禍であり困難であるが、行事の参加、創作物の展示、消防団との関係と地域活動は行っている。	地域の自治会へは加入していないが、コロナ禍前は事業所の行事へ招待するなどして交流を図っていた。町の七夕祭りへのササ飾りや文化祭へ創作作品の出展をしたり、利用者が見学に出かけたりしている。地域の消防団と合同防災訓練の実施や地区の老人クラブ代表や消防団長を運営推進会議委員にお願いし、地域とのつながりに配慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防団の方々に対しては認知症利用者の対応について理解はされているが、地域の方に対しては理解度を高める活動はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設状況を伝達して課題、できている事を話し合いによって確認をしている。	感染対策に配慮して、年6回参集して会議を開催している。利用者・家族の代表、民生委員、老人クラブ、障がい者施設の代表、消防団長が委員に就任しており、コロナ感染対策や行事へのアイデア、健康管理への助言等、委員から活発な意見が出され対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村、包括と連携をとり、施設状況の伝達、行政からの情報とやり取りをして情報共有をしている。	浄法寺総合支所地域支援課職員が運営推進委員として会議に出席しており、事業所の実情を把握してくれている。利用者で生活保護受給者が5名おり成年後見の情報提供や手続きの支援、困難事例では助言や協力を得ている。居室へのエアコン設置に対する市からの補助など、様々な面で支援と協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束への知識の教養、周知と行い身体拘束を行わないケアを実践している。	「身体拘束0宣言」により、全職員で常に意識し支援にあたり、パンフレットも作成している。管理者・ケアマネ・介護リーダーの4人が委員となり、委員会を毎月開催し、研修は年4回、職員会議後に開催している。「なぜ身体拘束をしてはいけないのか」について、具体的事例をもとに意識の徹底を図っている。スピーチロック、ネグレクト、投薬についての注意喚起や職員のストレスチェックを年2回実施し、虐待防止にも配慮し振り返りや精神的ケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について知識の教養、周知と行い虐待を行わないケアを実践している。時には職員のストレスチェックを行い精神面のケアにも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見制度と勉強会を通じて理解度を高めている。現存、活用されている方もおり実践を通じて行政と関りをもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、説明の際確認をとりながら進行している。文面の間に質問内容を確認して不明な点、不安な点を伺いながら対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からの相談、要望など内容、対応について職員へお知らせをしている。内容を把握することで管理者不在時にも対応ができています。内容は運営推進会議の際、お知らせをしている。	利用者からは、日常会話から掃除や食事のテーブル拭きの手伝いがしたい、外出したい、ソーメンやうどんが食べたい、コーラ、ファンタが飲みたいなどの要望があり、対応している。家族からは、通院付添で来所した時、健康状況の報告やおこずかい依頼の電話連絡を行なった時に聞き取りしている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、終礼の他に日常で気づいた点をその都度発言できる環境づくりができています。他に職員会議の際、議題を設けて個々の考えを発言できる機会をつくっている。	年度末に職員全員が話合っ行う事業計画の作成などを通じ、支援在り方についての情報共有が図られている。管理者や社長との年2回の個人面談、毎月行われる職員会議、さりげない日常の会話から、管理者と職員とのコミュニケーションが図られており、事業所広報「にこにこ」の構成、利用者ごとのアルバム作成などのアイデアや工夫が支援に取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働者名簿、雇用契約書を通じて雇用形態を把握している。職員の特性は定期的に面談を通じて理解に努めモチベーションの低下にならぬよう関わりをもっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が発言しやすい雰囲気作りを心がけている。職員企画の勉強会の実施、支援のアイデアを募り職員個々のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設と情報交換をして自施設との比較化。または参考となる部分は取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時、本人様、ご家族様から情報を得たうえで支援に繋げている。利用後はご家族様へ状況を伝えて本人様の状況を理解していただくとともに関係の継続化も図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用時のみならず利用後も本人様の状況を広報または電話にて伝えて生活状況を伝達している。利用後、不明な点があった場合も要望を聞き、実現できる部分は実現している。		

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に職員間でシミュレーションを組み支援にあたっている。利用時は不安感を感じている為、利用者間に職員が間にはいり安心した生活ができるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に役割をもってできる事はご自分で行うよう支援している。一部支援で可能な部分は職員と一緒に行動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を居室担当より広報または電話にて状況を伝達している。ご家族様の要望にも可能な限り実現できるように支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との電話、年賀状やアルバムの送付と疎遠にならぬよう配慮している。	コロナ禍のため面会や外出を制限し交流が少ない中であって、家族や親せきから宅配でお菓子や衣類が送られてくる利用者もいる。広報誌「にこにこ」に利用者の様子を手書きしたり、年賀状やアルバム(年2回)を家族に送り関係が途切れない工夫をしている。昔懐かしいお菓子を食べて、小規模多機能ホームの利用者との交流も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者様同士で会話ができるよう配慮している。他に行事を通じて利用者様同士が笑顔となり互いに刺激を与えあっている場面もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時も関係は継続している旨を伝えている。求められた場合情報提供。写真の提供などフォローをしている。		

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴、趣味をもとに支援をしている。生活歴の中でご家族様からも情報を得て支援に繋げている。	自分の言葉で希望を話してくれる利用者は3人、問いかけで思いを把握できる利用者は6人おり、テーブル拭きや配膳、部屋掃除、シーツ交換、湯呑みの配膳などの手伝いの希望があり、利用者それぞれが役割を持っている。商店主だった利用者は預かり金を数えたり、新聞を読んだり、居室でのテレビ視聴などと希望に沿った対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援者からの強要ではなく、利用者様のペースを軸として関わりをもっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼、終礼時利用者様個々の状況について話し合っている。必要に応じてケアマネ。または看護師へ報告して支援に変化を加えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、個々利用者様の状況、状態について職員間で話し合っている。変化が必要な場合はケアマネより介護計画に変化をつけ、ご家族様に理解を得たうえで変更している。	短期目標3ヵ月、長期目標6ヵ月に加え変化があった際には随時見直している。毎月行われる職員会議で利用者全員のアセスメントを行い、職員全員で情報共有している。見直しの時期には、ケアマネージャーと居室担当者が協議し介護計画の原案を作り職員会議にかけ、看護師の意見も聞き、最後に利用者・家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に変化があった内容を記載している。変化について朝礼、終礼時に検討して迅速度が高い場合は修正している。変更点は連絡帳に記載して周知して統一した対応に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護のみならず権利擁護、福祉サービスの活用をしてご家族の方の負担軽減となっている。ご家族に相談された場合はサービス内容を説明をして理解していただいている。		

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域から美容室の方が来設され個々に散髪をされている。利用者様が出生地であり同地域であった為、喜ばれている場面があった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携をとり、体調不変時は指示を仰いで対処している。他、ご家族様の希望により協力医療機関以外の受診を希望されている場合は継続してかかりつけ医へ受診をしている。	入所前からのかかりつけ医に家族付添いで通院している方3人、入所後にかかりつけ医を協力病院に変えた方6人は職員付添で通院している。家族付添の時は、様子を記載した連絡票により情報提供している。通院結果は、家族からは様子を聞き、通院・受診録、連絡申し送りノート)に記録し情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療部分については看護師へ相談して指示を得たうえで支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	口頭、サマリーを通じて施設での生活状況を伝えている。入院中は施設生活での内容を伝達したり、病院での生活状態のやり取りをして現状把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、職員へ重度化の指針について説明をして理解をしていただいている。	重度化の指針を作成し、看取りのマニュアルもあるが、医療や看護の協力体制が整っておらず、看取り対応は難しい。そのため、入居時に重度化した場合の特養への移し替えについて説明している。家族等の意向を確認しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアル、看護師、協力医療機関への相談と急変時、迅速に対応できるよう対応している。		

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルをもとに職員へ周知している。近隣との繋がりでは主に消防団と繋がりがあり、有事の際、協力体制はできている。	避難訓練は年2回(夜間想定1回)消防署の立会のもとで実施し、職員の招集訓練も行っている。また事業所の敷地や建物を利用し、地区の3つの消防団と協力して消防訓練を合同で開催するなど、地域との協力体制もできている。発電機・ヘルメット・首から下げるライト・米・水・湯せんおかず・卓上コンロなどを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇勉強会を通じて接遇の意識が薄れないようにしている。利用者様の考えを優先として関わりもっている。	利用者の特技や経験、希望を聞いて、掃除や配膳等の手伝いのほか、預かり金も数えてもらっている。方言を使った声掛けなど利用者に親しみを持ってもらえるよう配慮している。トイレ誘導時や入浴時の羞恥心にも配慮している。個人情報(介護計画・バイタル等)の管理は、パソコンはパスワードで、紙ベースの情報のファイルは鍵のかかるロッカーで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の訴えを傾聴して思いを実現に繋げている。家族様へも希望を伝えて協力していただける部分は協力を得て実現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの特性を理解して利用者様のペースを優先している。空いた時間に対してはできていた部分を理解して無理がないよう好きな内容を提示して行動するきっかけをつくっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、選択が困難な方については生活歴、情報をもとに好みの色の衣類を選択して、その人らしい表現をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時、季節の野菜、好みの食事など会話を通じて献立をつくっている。食後には可能な方は下膳をしていただいたり、テーブル拭きをしたりと利用者様、職員と協力して暮らしている。	当番の職員が近所のスーパーで食材を買い調理している。月1回、ホットケーキやホットドック、へっちょこ団子等の手作りおやつを楽しんでいる。コロナ禍のため外食は控えているが、誕生会には季節を感じるお弁当を楽しんでいる。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表をもとに食事、水分量を把握している。栄養が円滑に摂れない方については医師に相談してアドバイスを仰いで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本、自力にて口腔ケアを実施しているが、困難な方については介助にて口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行動の省略が見られる方、排泄認知機能の低下の方に対しては定時、トイレ使用の促し排泄を行っている。	排泄が自立している利用者(布パンツ)1人、リハビリパンツ利用でトイレ誘導の声掛けが必要な利用者5人(パット利用4人)、おむつ(昼夜)利用3人いる。食事後・居室での休憩後に一斉にトイレ誘導の声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便につながる食事の提供、医師へ相談して薬の処方または調整をして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴中、職員との会話、仲の良い利用者様との混浴とリラックスできる場にもなっている。入浴時間は健康に支障をきたさない程度に時間を設けず、入浴していただいている。	入浴日は火・土曜日、入浴時間は午後1時から、利用者は週2回入浴している。2人で入浴している人も1組ある。一番風呂の希望や、長湯が好みの方にも対応している。入浴剤や浴室での唄ったり、職員との会話を楽しんでいるリラックスする時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は定めていない。利用者様のペースを主として対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書、通院記録をもとに薬の作用、副作用による注意点を把握している。状況の変化が見られた際は医師へ相談している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々の趣向を把握して、個々に合わせた支援をしている。歌が好きな方、花が好きな方、散歩が好きな方など個別に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換の一環として庭、雨天時は体育館へ散歩をしている。ご家族様からの支援としては全ての方ではないが通院後、自宅に立ち寄り本人様の希望を叶えている。	コロナ禍のため遠方への外出が制限されている。玄関でプランターの花を楽しみながらのお茶のみ、広い前庭の散歩、近所へのドライブ(車からは下りない)、建物内でのゲーム(ボールを足でける)をして楽しんでいる。	コロナの感染状況を見ながら、利用者の意向に沿った外出に向けた取り組みを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての利用者様ではないが、可能な方は本人様の紙幣に対して直接紙幣を触れ、金額の確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族への年賀状を利用者様自身で書き送ったケースもある。ご自分からのアプローチはないが、ご家族様からの電話、手紙に対して交流は図れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、廊下と季節感を感じる掲示物を貼っている。他に行事、日常の写真も貼っており利用者様も観覧している。居室にはテレビを設置できる状態となっており個別の趣向にも対応できるようになっている。	ホールには大きな窓から光が入り、開放的な空間となっている。エアコンにより空調は整っており、畳の小上がり、ソファー、食卓が使いやすく配置され、テレビ、季節感のある壁飾りがあり利用者が集まり、くつろげる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファーを設置しており仲の良い利用者が隣り同士で過ごせるようになっている。自室にもソファーがあり、一人の時間を過ごせる環境となっている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	基本、使い慣れた物を持ち込んでいただ いている。アルバム、写真立て、時計、 テレビなど馴染みのある物を持ち込ま れている。	居室は南側に大きな窓があり明るく、 エアコン、換気扇、ベッド、クローゼ ット、ソファが備え付けられている。 利用者は、テレビや家族写真、時計、 衣装ケース、カレンダーを持ち込み自 分の空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環 境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」 「わかること」を活かして、安全かつ できるだけ自立した生活が送れるよう に工夫している	手すりの設置、バリアフリーとADL低 下の方に対して生活に支障をきたさぬ よう配慮している。ADLの低下が見ら れる方に対してはトイレの近くに居室 を配置するなど利用者様の状態に合 わせて対応している。		